

米倉教公の週間為替市場見通し

6/20 日週号

ドル/円予想レンジ 100.60 - 108.30 円

『イエレン米FRB議長証言と英国民投票！』

■今週の市場動向：円高進行であっさり 105 円下抜け

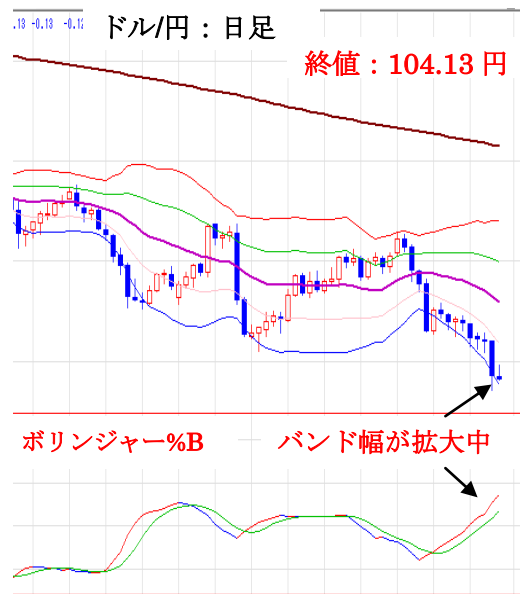
前週のドル/円の週足では、大陰陽線引けとなった。週明けは英国のEU離脱懸念が高まり、日経平均株価が582円安となったことを受けて一時105.71円まで下落した。14日も株安を嫌気したリスク回避の動きとなり一時105.60円まで下押しした。15日は欧州時間で106.39円まで買われたものの、米FOMCで2017年末と18年末のFF金利見通しを引き下げたことで、米長期金利が低下するとともに一時105.42円まで下押しした。しかし、イエレン米FRB議長が記者会見で、7月利上げの可能性を排除しなかったことから106.13円まで急速に戻した。16日は日銀が会合で金融政策を据え置いたことで、一部で追加緩和期待があっただけに発表直後からドル売りが強まった。リスク回避の動きが強まったこともあり、目先のストップロスを巻き込みながら103.54円と約2年10ヵ月ぶりの安値をつけた。ただ、海外時間に入り、英下院議員が銃撃され死亡が伝わると、同情票がEU残留支持に向かうとの思惑からポジションの巻き戻しが加わり、一時104.60円付近まで値を切り上げる場面も見られた。週末は、麻生財務相が朝方から強い円高けん制をしたことで、一時103.83円まで上昇したが、上値も重く104円台前半での動きに終始した。

■来週の注目点：イエレン議長議会証言と英国民投票に注意

今週の注目点は、まずはイエレン米FRB議長の21-22日の議会証言となる。市場のコンセンサスの年2回の利上げペースに可能性が残されれば、ドル買い要因となる。台風の目は英国におけるEU離脱を問う国民投票となる。投票は23日現地時間午前7時（日本時間4時）から午後10時（日本時間24日朝6時）まで行われる。最初の結果は夜中（日本時間24日午前9時）、最終結果は24日午前7時（日本時間24日午後4時）頃判明する模様だ。仮に離脱支持派が勝利した場合、世界的な株価の急落に伴ってリスク回避の円買いが急ピッチに進む可能性があり、節目を下抜けたことから、一気に100円台を目指す可能性もある。その場合、政府による介入警戒感が高まる。

■テクニカル的な見解

6月7日付のシカゴIMM投機筋の対米ドルの差し引き持ち高で、円は前週の+42,853から+55,690へと円の買い持ち高は前週から大幅に増加し、2008年以来の高水準近辺で推移。英国民投票でEU残留が決定すると、高水準にある円買い・ドル売りのポジションの巻き戻しも手伝って、一時ではあるが大幅な円安となる可能性がある。ボリンジャーバンド（パラメータ：20、±1、±2）では、バンド幅の縮小から拡大が継続していることから、円高圧力が強まっていることを示している。現在マイナス2σをバンドウォークしていることで下落基調が維持されている。テクニカル的には円高トレンドとなっているが、英国の残留が決定すると一気にポジションの巻き戻しが入る可能性がある。その際、上値で注目するのが25日移動平均線の位置する108.30円近辺となる。上抜けした場合は、75日移動平均線の109.70円近辺となる。



★先週の気になる出来事

FOMCの利上げ見送りや、日銀の金融政策の現状維持は織り込み済みと言われていたはずなのに、蓋を開けてみれば節目として意識されていた105円半ばや105.00円をあっさり下抜け、103円半ばまで下落した時にはビックリした。その後の英下院議員の銃殺事件を受けての戻りの速さにもビックリだ。そして、週末のまるで心電図を見ているような104円台前半での小動きにはさらにビックリした。今までの乱高下はウソのような静けさとなった。ちょうど台風の目の中に入ったような感じだ。再び嵐が吹き荒れる。

商号：株式会社フジトミ

金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第 1614 号

商品先物取引業者：農林水産省指令 22 総合第 1351 号,経済産業省平成 22・12・22 商第 6 号

加入協会：日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会、

■くりっく 365 の売買手数料は 1 枚当たり最大でインターネットスタンダードコースが片道 0 円 (税込)、インターネットプレミアムコースが片道 648 円 (税込)、コンサルタント取引 (対面取引) コース及びコンサルタント取引 (対面取引) オンライン併用コースが片道 1,080 円 (税込) です。

■くりっく 365 における証拠金の額は、株式会社東京金融取引所が定める為替証拠金基準額で、原則週次で見直されます。その額は通貨ペアによって異なり、個人のお客様の場合最大で約 25 倍のお取引が可能です。

【くりっく 365－為替証拠金基準額の算出方法】

金融先物取引所が定める為替証拠金基準額は以下の計算式に基づき、算出致します。

計算式：為替証拠金基準額＝取引単位 (元本金額) ×4%× (5 取引日の為替清算価格平均値)

■「くりっく 365」には、以下のリスクがあります。

【価格変動リスク】

くりっく 365 は、取引する通貨の価格の変動に伴い差損が生じる場合があります、元本や収益が保証されるものではありません。建玉を維持するために追加で証拠金を差し入れる必要が生ずる場合があります。また、差入証拠金以上の損失が生ずる場合があります。

【レバレッジリスク】

くりっく 365 は、取引の額が預託された証拠金に比して大きくなるため、価格変動リスクその他のリスクがその比率に応じて増幅されます。レバレッジにより、その取引について必要となる証拠金の最大 25 倍までのお取引を行うことができます。

【信用リスク】

当社は、東京金融取引所を相手方とした「清算制度」に参加しており、お客様の証拠金は、全額取引所が区分管理しているため、原則として全て保全されています。しかし、当社の信用状況の変化等により支払いが滞ったり、破綻した場合には、返還手続きが完了するまでの間に時間がかかったり、その他不測の損失を被る可能性があります。

【システム障害リスク】

当社及び東京金融取引所のシステム、又はお客様、インターネット業者、東京金融取引所の間を結ぶ通信回線等に障害が発生した場合には、相場情報等の配信、発注・執行等が遅延したり、不可能になることがあり、その結果、不測の損失が発生する可能性があります。

【税制・法律等の変更リスク】

税制・法律又はその解釈等が将来変更され、実質的に不利益な影響を受ける可能性があります。

【金利変動リスク】

取引対象である通貨の金利が変動すること等により、保有するポジションのスワップポイントの受取額が減少、又は支払額が増加する可能性があります。ポジションを構成する2国間の金利水準が逆転した場合等には、それまでスワップポイントを受け取っていたポジションで支払いが発生する可能性もあります。また、一部の通貨においては、外国為替市場における当該通貨の需給関係等の影響を受けて、金利変動によらずにスワップポイントの増減や支払いの逆転が生じたり、場合によっては、金利の高い方の通貨の買いポジションでスワップポイントの支払いが生じる可能性があります。

【流動性リスク】

くりっく 365 で提示する為替レートには価格差（スプレッド）があります。くりっく 365 では、マーケットメイカーが買呼値及び売呼値を提示し、それに対してお客様が注文を発注して取引が成立する方式を取っています。状況（天変地異、戦争、政変あるいは為替相場の激変等）によって、マーケットメイカーによる買呼値や売呼値の安定的、連続的な提示が不可能または困難となることがあり、その結果、想定する価格で取引ができないなど、お客様にとって不測の損失が生じる可能性があります。また、一部の通貨において母国市場等の休業の場合には臨時に休場することがあります。更に、当該国の為替政策・規制による他通貨との交換停止や外国為替市場の閉鎖の措置がなされるなどの特殊な状況が生じた場合には、特定の通貨ペアの取引が不能となる可能性もあります。なお、平常時においても流動性の低い通貨の取引を行う場合には、希望する価格での取引ができないなどの不利益を被る可能性があります。

【コンバージョンリスク】

クロスカレンシー取引においては、決済が当該通貨ではなく円貨でなされることから、決済時に当該通貨の為替リスクの他に円との為替リスクがあります。

【ロスカットのリスク】

相場の変動により、有効比率が当社の定める基準以下となったことを当社が確認した場合、お客様の意思に関わらず、当社はおお客様の全ての未約定注文の取消及び全ての建玉の決済注文（ロスカット注文）の発注を行います。

ロスカットの場合でも、相場の急激な変動により損失の額が差し入れた証拠金の額を上回る可能性があります。

【情報リスク】

当社からご提供させていただく情報は、くりっく 365 の取引の参考としていただく資料です。その記載情報は、信頼性、正確性、完全性において保証されるものではありません。また、情報内容も予告なしに変更することもあります。

【その他】

取引所為替証拠金取引の売買は、クーリング・オフの対象とはなりません。取引所為替証拠金取引に関しましては、金融商品取引法第 37 条の 6 の規定の適用対象とはなりませんので、ご注意ください。

※くりっく 365 は、株式会社東京金融取引所の登録商標です。